

学校経営のポイント

“他人の努力”に学び自己のベストを尽くす

若井 彌一

早いもので、もう卒業式のシーズンとなった。高校などでは、卒業式を済ませたところも多いであろう。中学校や小学校では、これからである。

児童・生徒に“1年間のふり返し”を

この時期に、ぜひ取り組んでいただきたいことがある。それは、児童・生徒にこの1年間(学年)をふり返し、自分にとってどんな1年間であったのかを頭の中で整理し、次のステップ・アップへの自覚を促すことである。

昨年4月27日付けで、文部科学省初等中等教育局長名により発表された「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校、及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」と題する通知(以下、「指導要録改善通知」という)では、次のような指摘がされている。

『答申』にもあるように、学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの『生きる力』がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要があります。これからの児童生徒の学習状況の評価に当たっては、このことを適切に評価できるよう、工夫することが必要となります」

「基礎的・基本的な内容を確実に身に付けること」「自ら学び自ら考える力などの『生きる力』がはぐくまれているかどうか」、これらのことを児童・生徒自らが1年間をふり返ることにより、自己点検・評価する試みをぜひ導入して見ていただきたい。こ

の自己点検・評価の試みが、発達段階を十分に考慮に入れたものでなければならぬことはもちろんであるが、肝心なことは、1年間の人間としての歩みを整理し、児童・生徒一人ひとりの言葉として記録に残すということである。

記録の継続性を重視して、小学校6年間、中学校3年間、高校3年間を見通した様式を設定しておくようにしたい。

他人の努力に学ぶ大切さに気づかせる

1年間のふり返しと関連させて、児童・生徒に、われわれが何気なく生活しているなかで、いかに多くのことを他人の努力から学んでいるかを気づかせるようにしたい。俗に言う「伸びる人」と「伸びない人」の決定的な違いは、他人の努力に学ぼうとする姿勢を強く貫けるかどうかである。

スポーツの世界であれ、科学や芸術の世界であれ、この点は共通している。歴史的に名を残すような人は、またその前に生存した大きな人物に感動し、多くを学んでいる。他人の生きる努力に感動する学びの場や機会をどのように設定するかは、われわれ教育する側が負っている重要な課題の一つである。

(わかい・やいち=上越教育大学教授)

キーワードは“教師”と“子ども”！ “読本シリーズ”最新刊 好評発売中

- 『発展的学習の指導の手引き』高階玲治編・2100円
- 『子どもの学力読本』新井郁男編・2100円
- 『指導力不足教員』読本』八尾坂修編・2100円
- 『心を育てる「朝の読書」』林公編著・2100円

本紙はホームページでも閲覧できます
<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

予約受付中！ 10年間の審議会重要答申・統計資料・新法令・通知通達等を整理収録！ 教育開発研究所・刊

創刊30周年記念増刊『教職研修 '02 情報版』菱村幸彦監修

各学校・教委に1冊常備の資料大全 【資料CD ROM】添付 4月増刊・B5判300頁・定価2,730円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)